

濃厚流動食要領

2026.8.1 更新

1. 定義

濃厚流動食は、医師のオーダーにより栄養の摂取、又は追加の目的で患者に摂取させる濃厚な流動食で、そのうち特に鼻腔、胃ろう等から経管にて摂取させるものを経管栄養濃厚流動食、口から摂取させるものを経口栄養濃厚流動食と称する。

本院の濃厚流動食は、本院の栄養管理部会で承認を得ることが必要であり、現在の採用品は次のとおりである。

	100ml 当たり栄養価				味	内容量	備考
	エネルギー	たん白質	脂質	炭水化物			
MA-ラクフィア 1.0	100	4	3	15.0	—	200ml・300ml・400ml	半消化態栄養剤
アイソカル 2K	200	7.2	8.0	23.8	—	200ml・250ml	半消化態栄養剤
アイソカル グルコパル TF	100	3.6	4.5	10.5	—	200ml	低糖質
レナジー bit	120	0.7	3.3	24.9	乳酸菌飲料風味	125ml	低蛋白質・低ナトリウム・低リン・低カリウム
レナジー U	150	4.9	4.2	25.3	バナナ風味	200ml	カリウム・リン調整
ペプチタメンスタンダード	150	5.2	6	18.7	バナナ風味	200ml	消化態栄養剤
ハイネックスイーツ	100	4	2.2	16.7	紅茶風味	375ml・500ml	消化態栄養剤
アイソカル 100	100	8	8	25	ミルクティ・ポテトスープ	100ml	
メイバランス mini	160	6	4.4	25.4	コーヒー・バナナ・コーンスープ・苺	125ml	
すいすい	128	6.4	0	25.6	ストロベリー・フルーツミックス	125ml	無脂肪
アイソカルクリア	100	5	0	20	ピーチ・レモンティー	200ml	無脂肪
アルギネートウォーター	80	2	0	18	スポーツドリンク風味	125ml	アルギニン入無脂肪

フリーコメント対応品

すいすいゼリー	150	7.5	Tr	30.4	アセロラ・ゆず	120g(106ml)	コラーゲン・ペプチド配合
メイバランスジェリー	160	6	4.4	24.8	多種	125ml	

Tr : 0.09g

2. 経理処理

受託業者は、濃厚流動食については、納入業者からの購入実費を本院に請求するものとする。

また、濃厚流動食のみを喫食する患者分については、業務数量から除外する。

3. 濃厚流動食の調達・在庫・活用

受託業者は、医師からの食事箋による指示があった場合に遅滞なく製品を患者に供給できるようにしなければならない。

また、在庫を保有する場合、受託業者の保有する在庫量は必要最小限とするが、主に使用している濃厚流動食については、災害時にも使用できるような在庫数を確保しておき、在庫数について定期的に本院に報告すること。

賞味期限が間近に迫った濃厚流動食がある場合は、期限及び数量について本院に報告するとともに、その活用方法について提案すること。

4. 濃厚流動の作成について

(1) 作業場所

調乳室にて行う。

(2) 開封後の扱い

残った濃厚流動は、空気に触れない様に蓋をし開封時刻の記入をする。冷蔵庫にて保存し、患者が24時間以内に摂取できるよう作成・配膳する。

(3) 容器

① 400mlと750mlの流動コップを使用する。

ビニールテープに病棟・名前（フルネーム）・製品名・朝 昼 夕別 を記入し、容器の蓋に貼り付ける。

② ディスポーザブルタイプ（MA－ラクフィア 1.0・アイソカル 2 K・ルネックスイゲル）
本体に病棟・名前（フルネーム）・朝 昼 夕別 を記入する。

(4) 作成方法

① 希釈が必要な場合、使用する水は、調乳水製造装置より製造される湯冷ましを使用する。

※ 早番職員は、出勤時に調乳水製造装置のスイッチを入れる。

② 食札の指示に従って作成する。

（例）

a. MA－ラクフィア 1.0 100ml → 出来上がり 200ml

MA－ラクフィア 1.0 100ml に調乳水を加えて、出来上がりを 200ml にする。

b. 朝・昼・夕 各MA－ラクフィア 1.0 200ml

原液のまま流動コップに分注する。

※ 400mlの流動カップに400mlの濃厚流動を入れると、蓋をした時、中の濃厚流動が溢れてしまうので、400ml以上は、750mlの容器を使用する。

(5) 作成時間

開封後冷蔵庫保存にて24時間以内の使用が可能なので、期限内に患者が摂取出来るように作成する。

12:00 当日夕食分・翌日朝食分

15:00 翌日昼食分

(6) 作成後の保管

- ① 配膳時間別にトレーにセットし、調乳室の冷蔵庫の最上段に保管する。
 - ② 濃厚流動が多く調乳室の冷蔵庫に入りきらない場合は、チル室の冷蔵庫に保管する。
- ※ 作成した濃厚流動は、常温に放置しないこと。

5. 配膳について

(1) 配膳時刻

原則として食事の配膳時刻に、温冷配膳車にて配膳する。

ただし、医師からの食事箋による指示によって、配膳時刻が異なる場合、本院の指示に従うこと。

朝食・・・ 8 : 0 0

昼食・・・ 1 2 : 0 0

夕食・・・ 1 8 : 0 0

(2) 配膳方法

流動コップに作成した濃厚流動食及び、パック（又は缶）のままの濃厚流動食は冷蔵部分にセットし配膳する。

※ 一食前の配膳とする。（例）昼食使用分を朝食時に配膳